

防災公開講座(しずおか防災地域連携第 15 回土曜セミナー)

平成 21 年 5 月 16 日(土) 13:30 から
静岡県地震防災センター ないふるホール

テーマ 「災害時、トイレは大丈夫？」
講師 影山 慎二 しろ医院(静岡市葵区相生町) 院長、
浜松医科大学 非常勤講師

<講演概要>

災害時に困ること

市民意識調査では、飲料水・食料の確保、生活用水(トイレ、洗面、掃除など)の確保がそれぞれ 71.5%、82.5%と高い値を示しております。また、災害時になくて困ったものには、生理用品、ウェットティッシュ、オムツ、簡易トイレなどが含まれています。

どれだけ水分は必要？

災害が起きたとき、必要最小限の飲水量はご存知ですか？脱水になると、エコノミー症候群の原因にもなりますから、体重 1kg あたり 25cc の尿量が確保できる水分を取る必要があります。60kg の人で一日 1,250cc の水分が必要です。大人で 1 日 3 リットルの水を用意しましょうというのは、その他使用する分も合わせて必要と言う意味です

仮設(簡易)トイレについて

洋設はほとんどない、ましてや障害者用は皆無、オムツも幼児用ばかりと問題が山積みです。8,000 回使用可能といわれている汲み取り式の簡易トイレも、絶えず便をとらないといけない、バキュームカーも来られるかどうかかわからず、実際は 100 回くらいしか使用できないこともあります。また、簡易トイレは、組み立てに 15 分、1 人では運搬不可といった問題もあります。行政に頼り切りは危険です。

災害時の実際

仮設トイレは 3 日で増えます。しかし、それまで手持ちのトイレでしのがなければいけません。トイレ行列で待っている間に、膀胱炎になるなどの健康面での問題も多くあります。また今の若い人は和式で用を足せる人が少ない、水洗でないとトイレでないと思っている人が多い、医療従事者や地域の中心になる人は、多忙でトイレに行く時間がとりにくいなどの問題が挙げられます。

水洗でなくなったトイレの利用

災害が起きてしばらくの間は、家庭用トイレは、断水していても配管がこわれてなければ、大便等

の固形物を袋に取れば、水分は流せることはご存知でしたか？ただし、袋は大便秘専用とすること、拭く紙は別に捨てるなどの注意が必要です。

平時にも使える災害に強いトイレ…

公園などのトイレは、きれいな水洗トイレ(災害時には使えない)ばかりではなく、便を堆肥にすることが可能なエコトイレ(コンポストイレ)があってもいいのではないかと考えています(そのためには有料だって構わない…?)

オムツを利用しては…

一日10回以上もトイレに行くかたや、一人では用が足せない、介助がないとトイレに行けない、洋式でないと無理など、の場合

トイレの列に並びたくない場合などは、オムツを利用してもよいかもしれません。

災害で問題になる健康不安について

トイレの問題、(排泄;尿路感染症、伝染病)

不安(うつ病、アルコール依存症)

運動不足(高血圧、関節障害)

避難所生活:共同生活(睡眠不足)、寝具(腰痛)

マスク、洗面、歯磨きの不足などによる肺炎です。

結論

やはり排尿(排泄)管理は重要な問題です。職場や家庭近くのトイレを考え、共同購入について検討いただくのもよいかもしれません。また、仮設(簡易)トイレの整備(美)や拡充、平時でも使えるエコトイレや大人用オムツの配備などの重要性を行政に提起していくことも必要です。

聴講者数 90名

